

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	子ども・若者相談事業			事業番号	08-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	子ども部	岩田 孝	青少年課	目黒 明	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	2	子どもの成長をみんなで喜ぶまちづくり	
		施策展開の方向	2	子どもや若者の成長と自立を支えるまちをつくる	
		施策	8	次代を担う子ども・若者の育成支援の推進	
予算事業名	子ども・若者相談事業費	非行防止活動推進事業費			
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	できる規定がある
事業開始年度	開始年度	昭和52年度	～	終了年度	—
関連法令等	子ども・若者育成支援推進法				
国・県の計画等	かながわ青少年育成・支援指針		計画期間		
関連個別計画	伊勢原市教育振興基本計画、いせはらっ子応援プラン		計画期間	平成22年度～平成29年度 平成22年度～平成26年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	複雑化する社会環境の中で、保護者や本人だけでは解決が難しい諸問題が多数発生している。子ども・若者の中には人間関係の希薄化により相談できず悩む者も多いことから相談員を配置し、更に、困難を抱える子ども・若者の支援には補導員を配置し、非行・被害防止活動を行う。				
目的 (何をどうしたいのか)	子ども・若者への相談体制の充実 ①相談により問題改善や解決に向けた助言を行う。 ②非行の早期発見と指導に努める。				
主な対象 (誰・何を対象に)	子ども・若者、困難を有する子ども・若者(0歳から概ね29歳)、就労に関する分野は39歳まで				
事業内容 (手段、手法など)	・子ども・若者に関する相談事業と非行防止活動を推進するとともに、県央地域若者サポートステーションなど関係機関と連携し、悩みを抱える子ども・若者の支援を推進します。				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	子ども・若者相談事業	継続実施	継続実施		
	非行防止活動(街頭指導)	継続実施	継続実施		
サポートステーション連携	継続実施	継続実施			
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	子ども・若者に関する相談件数	220件	220件	220件	



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	青少年に関する相談業務を行うとともに、非行の早期発見と指導に努める。 また、県央地域若者サポートステーションと相談業務の連携を図り、就労支援のための講演会及び個別相談会を実施し、困難に陥らないよう未然防止を図る。		
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> すべて直接実施 <input type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	子ども・若者相談事業	継続実施	
	非行防止活動(街頭指導)	継続実施	
	サポートステーション連携	継続実施	
実施した取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に関する相談を電話、面談、メールなどで受け付け、青少年相談員が対応した。 ・街頭指導(非行防止パトロール)を青少年相談室補導員が実施した。 ・県央地域若者サポートステーションと連携し、ひきこもりやニート等に対する相談業務で連携を図った。 		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	子ども・若者に関する相談件数	220件	154件

年度		28年度 実績				29年度 実績			
事業費合計 (a)		5,958	千円				千円		
内訳	国県支出金 ①	256	千円				千円		
	地方債 ②	0	千円				千円		
	その他特財 ③	0	千円				千円		
	一般財源 (a)-①-②-③	5,702	千円				0	千円	
国県支出金の内容		市町村事業推進交付金 補助率:県1/2							
コスト	その他特財の内容	受益者負担		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期			
		その他							
人件費	正規職員	0.11	人	952	千円		人		千円
	その他の職員	0	人	0	千円		人		千円
	人件費合計 (b)	0.11	人	952	千円		人		千円
トータルコスト (a)+(b)		6,910	千円						千円
単位当たりコスト	対象数	市民		単位				単位	
	定義								
	対象数	101,635	人						
	総事業費 / 対象数	68	円					円	

評価 (Check)へ

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	左記判断理由	電話や電子メールなど相談事業を推進した。県央地域若者サポートステーションと相談事業の連携を図った。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	近隣3市(厚木市、秦野市、平塚市)においても、子ども・若者を対象とした相談、困難を抱える子ども・若者への支援、非行・被害防止活動を実施している。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	子ども・若者やその家族の相談や非行の防止に寄与している。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	青少年相談員の対応や関係機関との連携等により、効率化を図っている。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	県内において子ども・若者をめぐる事件が発生していることから、本市においての相談や非行防止の更なる推進が必要である。
次年度取組方針		県央地域若者サポートステーションと連携して、就労支援のための相談会などを実施していく。		
所管部長による総評		少子化や核家族化の進行などから、子ども・若者が他者に対する思いやりや社会性を身に付けることが難しくなっている中、子ども・若者のひきこもり、非行等の問題を抱え、支援を必要とする子ども・若者や、その家族のための相談に資する本事業の必要性は、高いものと認められる。このため、相談事業や非行防止活動を継続するとともに、地域若者サポートステーションとの連携を図りながら、本事業を推進すべきと考える。		